



アニュアルレポート

2025

こどもたちが
自らの可能性を広げられる
社会を目指して





こどもたちが
自らの可能性を広げられる
社会を目指して



理事長ごあいさつ

ベネッセこども基金は、「こどもたちが自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指し、2015年の公益財団法人化以来、こどもを取り巻く環境の改善に取り組んでまいりました。日頃より当基金の活動に温かいご支援をお寄せくださっている皆様に、心より御礼申し上げます。小児科医として医療・教育・研究の現場でこどもたちと向き合ってきた経験から、こどもの健やかな育ちには、身体・心理・社会の三側面（biopsychosocial）から一人ひとりを理解し、その声や思いに耳を傾けながら支えていくことが大切だと考えています。

こうした考えのもと、当基金では、多様な分野の皆様と協働しながら、助成事業と自主事業の両輪で、こどもたちの学びと育ちを支えています。助成事業では、資金的な支援にとどまらず、団体の皆様と対話を重ね、一つひとつの活動に寄り添う伴走支援を大切にしています。自主事業では、制度の狭間に置かれやすい若者への支援を含め、多様な学びや社会とのつながりを育む取り組みを進めています。

これからも、一人ひとりの声と皆様とのつながりを大切にしながら、こどもたちが自分らしく未来を描き、その可能性を広げられる社会の実現に向けて歩みを進めてまいります。

今後とも、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



公益財団法人
ベネッセこども基金 理事長
五十嵐 隆

1978年東京大学医学部医学科卒業。同小児科、清瀬小児病院腎内科、Harvard大学Boston小児病院を経て、東京大学大学院教授。2012年より国立成育医療研究センター理事長。東京大学教育研究評議員、日本学術会議第二部会員、日本小児科学会会長、東京大学医師会会長を歴任。健康とは「病気でない」ことではなく、身体・心理・社会的well-beingな状態であると考え、成育基本法やこども家庭庁の設立に尽力。身体的well-beingは世界一でも、自殺率の高さなど心理的well-beingが国際的に低位と評されるわが国の医療・保健のあり方を見直し、学校健診の個別健診化など、こどもの心理・社会的well-beingの実現を目指して活動中。

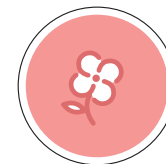
ベネッセこども基金が取り組む 「こどもの学び」の4つのテーマ



経済的困難を抱える
こどもの学び支援



病気・障がいを抱える
こどもの学び支援



よりよい社会づくりに
つながる学び支援



こどもの安心・
安全を守る活動



災害時には緊急支援も



被災したこどもの
学びや育ちの支援

助成事業

全国の困難を抱えるこどもたちの学習支援などを行う団体に助成金提供や組織基盤強化、関係性づくりを支える伴走支援を行っています。



自主事業

学校や企業・支援団体と協業し、こどもたちを取り巻く社会課題解決のモデルづくりや、教育プログラムの開発普及を行っています。

目次

ごあいさつ 01

自主事業 03

助成事業 09

決算報告 13

財団概要 14

自主事業



自主事業は、こどもの学び支援のためにベネッセこども基金がさまざまな協業先とともに企画・実施する事業です。

Core Theme

支援の根幹となる「子どもの権利」を守るために 必要不可欠な「ユースワーク」の研究・実践を本格始動

ユースワークとは、こども・若者が安心して過ごせる居場所の中で、自分のやりたいことに挑戦したり、地域の活動に社会の一員として参加できるよう支える営みです。こどもから若者へと移行していく過程で、10～30代くらいの若者の居場所として機能するのが「ユースセンター」です。自分らしく成長し、社会とつながっていく中で、自分の意思をもち、それを表現しながら周囲と協働する力を育てていきます。若者一人ひとりが社会とのつながりを実感し、自ら未来をつくる主体となっていくことを支える「ユースワーク」について、研究・実践を本格的にスタートしました。

国内外でモデル性のある事例を現地視察

⇒

報告会での学びと対話

⇒

ユースワークにかかわる人たちがつながり、次の実践へ

北欧で国内のこども支援団体と現地視察



北欧視察の報告会。学びを深め、人的ネットワークも構築



広く国内の事例を視察



イギリスのユースワーカーから、大切にしている価値観を学びます



視察の様子はnote記事でご覧いただけます。



こども・若者が安心して過ごし、自らの意思でかかわっていける社会へ

Special Interview

日本福祉大学講師 両角達平先生



ストックホルム大学などで学び、欧州における若者の社会参画や若者政策、ユースワークを研究。日々の研究内容を発信する個人ブログも人気。著書多数。

こども・若者が自由に挑戦できるよう、 信頼して裁量を渡す社会に

北欧ユースワークの専門家で、北欧視察のコーディネーターでもある両角達平さんに、視察の意義や成果、今後への期待についてお話を伺いました。

私がユースワーク研究を始めた原点は、学生時代の経験にあります。中学・高校時代には音楽スタジオや自習室が充実した地元の施設でよく過ごしていましたが、大学で地元を離れてみて、そうした居場所は当たり前にあるものではないのだと気づきました。また大学生という立場で世の中をとらえたときに、社会との距離感を大きく感じました。自分の声は本当に届いているのか？ 若者の居場所はあるのか？ と。

大学3年で初めてスウェーデンに行き、同世代から「民主主義」という言葉が頻繁に出ることに驚きました。初めはピンとこなくて、民主主義ってどういうことなんだろう？ 本当の意味で理解したい、という気持ちが湧き上がってきました。

今回の北欧ユースワーク視察では、日本のこども支援の最前線で活動されている方たちといっしょに、スウェーデン・フィンランドの最新の現場を見て、国内のユースセンターの在り方についてヒントを得ることができました。スウェーデンへの留学経験から、やはり現地の空気感から得られるものは大きいと感じていて、それを皆さんといっしょに体験できたのがよかったですね。実際にユースワーカーの方のお話を見聞きし、体験することで、語る言葉にも実感が伴っていきます。

北欧には、日本にまだない考え方が満ちていて、それらを取り入れるには新しい言葉や理念、肌で感じる身体感覚が必要です。現地で視察と振り返りを行うたびに、これからの日本のユースワークを考えるうえでの問いがシャープになっていった。自分自身も、公共のあそび場（パークレク）やそこで活躍する若者リーダーの存在、フィンランドとスウェ

ーデンの違いなど、新たな発見も数多くありました。

視察にはライターさんも同行し、研究者とはまた違った視点で取材をしてくださいました。現地の様子やユースワーカーの生の声、利用者のリアルな姿から、サイドストーリー的な要素まで記事にしていただけました。ユースワークについて皆さんに関心をもっていただき、広めていくのにとっても有効で、発信力のあるベネッセこども基金さんが主催する意義の一つだと思います。今後も国内外のユースワークについて発信を続けていってほしいです。

帰国後の報告会は4回のオンライン発表のあと、最終回として対面・オンラインのハイブリッド形式で交流会を行いました。とくに対面の交流会では、ユースワークにかかわる人たちが一堂に会し、つながりができる場になりました。

日本のユースワークは、スタートラインに立ったところです。国としてももっとユースワークにリソースを割いてほしい。せっかく現場で先進的な取り組みをしても、社会や国に広がっていかないのはもったいないことです。ベネッセこども基金さんには中間支援団体として、現場と国・自治体をつなげる役割を期待しています。まだ知られていない活動を発掘し、社会とつなげていってほしい。また、「若者自身の活動」を直接支援するしくみがあってもいいと思います。若者が自由にやりたいことに挑戦できるためには、資源と裁量が必要。決定権や予算もなく「好きなことをやりなさい」と言っても、できません。自由に生きる環境を整備するために、若者への信頼の証として資源や裁量を渡し、任せていくことが大切だと思います。



経済的困難を抱えるこどもの学び支援

さまざまな事情から経済的に困難な状況にあるこどもに対し、学びや体験の機会提供、困りごとの解消などの支援を行います。



Pick Up

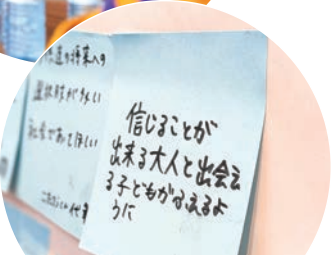
児童養護施設の高校生がカナダでユースと交流。 視野を広げ、学びや自己理解を深めるきっかけに

社会的養護の下で育つこどもは、十分な学びや体験の機会を得られず、進学や将来への希望を伝える経験がもてない場合があります。

児童養護施設の高校生が人権先進国であるカナダを訪れる10日間のスタディツアーは、2024年に開始し今回で2年目。現地ユースとの交流、グループワークやプレゼンテーションで自分の意見を表明する体験をしました。カナダのユースとの対話を通じて、自分の経験や考えは唯一無二であること、それを伝える重要性や自己決定・意見表明の権利への気づきがありました。帰国後の事後報告会ではカナダで得たことの理解を深めるセッションで想いを共有。発信力や問いを立てて探求する力、自分の人生を主体的に描き、挑戦する力を育みました。



現地のユースと交流し、日本と異なる考えにも触れました



事後報告会では一人ずつ学んだことを発表し、想いを言葉にしました

※特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン、社会起業家白井智子氏、NPO法人チャイボラ、現地コーディネーター菊池幸氏との協業で実現しました。

活動の様子はベネッセこども基金のサイトからご覧いただけます。



Pick Up

外国ルーツのこどもの学びを支えるキャラバンを実施。 全国4か所で知見を交換し、横のつながりづくり

日本国内で暮らす、外国にルーツのあるこどもたち。言葉や文化、生活習慣の壁もあり、学びや体験の支援も全国的に必要性が高まっています。一方で、活動は地域ごとなど個々になりがちに。支援団体同士がつながりをもち、互いに知見交換したいという現場の声を受け、つながりを強める施策に力を入れました。2024～25年度にかけて香川・北海道・大阪・福井で支援団体が集うキャラバンを開催。パネルディスカッションやグループワーク、先進的な取り組みをする学校の見学といったプログラムで、当事者がもつ困難や希望、仕事や自己実現に向けた将来の描き方などを浮き彫りにしました。支援者同士が学び合い、ネットワーク形成の土台をつくることができました。

※YSC Global Schoolとの協業で実現しました。

活動の様子はベネッセこども基金のサイトからご覧いただけます。



日本の生活で感じたことや体験を、ラジオ形式でトーク(福井)



将来の夢や仕事についてのパネルディスカッション(大阪)



よりよい社会づくりにつながる学び支援

こどもたちが自分らしく未来の選択肢を広げていける社会の実現を目指し、インクルーシブ教育やDE&Iを推進しています。



Pick Up

ICTを活用し、視覚障がいのこどもたちの可能性を広げる学びの場づくりを

視覚障がいを抱えるこどもたちは体験や他者と協働しながら自己表現をするといった学びの機会が限られています。加えて、進路やキャリアなど将来を描くうえ

でも十分な情報やつながりも限られています。これらの課題解決に向けた2つの取り組みをご紹介します。



こどもたちの実際の作品をアバターとして鑑賞

メタバース空間での作品展を開催。 自分を表現し、議論する機会をつくる

北海道の盲・視覚支援学校4校が協力し、メタバース（コンピュータ上に構築された三次元の仮想空間）でのアート作品展を開催。音によるナビゲーションや見やすい画面配色など、弱視や全盲のこどもがひとりで操作できるよう工夫しました。自分の気持ちやアイデアを表現した作品に対し、ほかのこどもから意見や感想をもらう協働的な学びの中で、伝える力を磨くことを目指しました。

※一般財団法人ニューメディア開発協会との協業で実現しました。

多様な人々が活躍できる仕事や働き方への理解が深まりました



視覚障がいのある学生向けお仕事説明会・プログラム

- 多様な業界より、5社の企業から話を聞く
～どんな仕事をしているの？社風は？～
- 視覚障がいのある5人の先輩社会人の体験談を聞く
～夢やキャリアの歩み、働くうえでの工夫～
- 質疑応答
～仕事と人生のリアルを語る～



多業種の社会人とオンラインで交流し、 仕事や進学のイメージを描く

日ごろから視覚障がいのあるこどものための調査やワークショップを実践している団体の知見を生かし、こどもが将来を描くための場づくりも実施。視覚障がいのある高校生・大学生へのお仕事説明会では、会社員や経営者など多様な経歴の視覚障がい当事者の先輩方が仕事の様子や工夫、これまでのキャリアパスについてご講演。質疑応答でもリアルな体験談を聞き、将来の夢や選択肢を広げるきっかけの一つとなりました。

※リファインプロジェクトとの協業で実現しました。

活動の様子はこちらからご覧いただけます。



Pick Up

中高生による当事者研究を支援する
「DE&I賞」でマイノリティ性の社会モデルを推進。
研究者どうしの交流も広がる

かつて障がいは「本人の体の中にあるもの」とされ、個人の努力で社会に合わせる「医学モデル」の考え方が中心でした。現在は「障がいはアンフェアな社会環境の中にある」とし、誰もが参加できる社会づくりを目指す「社会モデル」が大切だといわれています。しかしまだまだ実現されているとはいえません。

そこで、「ベネッセこども基金DE&I（ダイバーシティ＆インクルージョン）賞」を設置。自分を取り巻く環境でマイノリティだと感じる違和感や名もなき特性について探究する「当事者研究」を行う中高生を支援しました。

研究費助成のほか、当事者研究の第一人者である東京大学先端科学技術研究センター熊谷晋一郎先生をはじめ、研究者の先生方にメンターとして半年間研究プロセスをサポートしていただきました。

※株式会社リハネスとの協業で実現しました。



ベネッセこども基金事務局長より、「ベネッセこども基金DE&I賞」を授与

ベネッセこども基金DE&I賞・研究対象分野
自分自身の特性やマイノリティ性に着目したあらゆる開発や研究

2025年度の研究テーマ例

- 「光と香りで“心を照らす花”の製作～4感で感じる癒やしの仕組みとその可能性～」(高校2年生)
- SNS「病み垢」依存から「リスクを冒して会ったことのない人同士の集団で集まる」行動に至るまでの路線に乗った中高生のとらえられ方はどうしたら変わるか(高校3年生) など

2025年度は
特別にアルムナイ会（同窓会）を実施。
この3年間の受賞者が集まり交流

アルムナイ会では、互いに研究内容やその後の活動を共有。一人ひとりとはマイノリティでも、探究し、発信し、何かを変えようとする人たちが集まれば大きな力になる。そんなエネルギーにあふれた時間となりました。



オンライン参加の熊谷先生とともに

東京大学先端科学技術研究センター教授
熊谷晋一郎先生

東京大学先端科学技術研究センター教授、小児科医。専門は小児科学、当事者研究。今回の研究で半年間研究プロセスをサポートいただきました。



マイノリティ性や障がいのある当事者が研究をすることには、大きな意義があります。障がいのない専門家だけで研究をすると、当事者が求めるものとずれてしまうことがある。当事者の経験やニーズ、苦しみを表現するための言葉さえ存在しない場合もあります。あなたの苦しみは決して、「気のせい」ではない。新しい言葉をつくり、いろいろな人と一緒に、時に衝突もしながら快適な社会に変えていく。当事者研究は、まさに社会モデルを体現したもののなのです。

活動の様子はベネッセこども基金のサイトからご覧いただけます。



病気・障がいを抱えるこどもの学び支援

重い病気や障がいを抱えるこどもの学びや体験の機会を創出し、成長を支援する事業を行っています。



Pick Up

病気療養中のこどもへの支援体制について、
認知や理解を広める

病気により長期療養を必要とするこどもたちは、勉強や学校生活に多くの不安や悩みを抱えています。各地域で相談や情報提供、関係機関との調整を行うのが「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業（小慢事業）」ですが、認知度は低く、地域ごとの「自立支援員」もあまり知られていません。そこで、支援の情報をまとめたハンドブックの配布を今年も継続して実施。さらに2025年度は専門家によるイベント「病気療養する子どもとその家族の支えになるには？」を開催しました。対面とオンラインで、全国から行政・教育・医療・保護者などさまざまな立場の方が参加。現状を知り、できる支援について考える場となりました。

※認定NPO法人ポケットサポートとの協業で実現しました。



ライフステージに応じてどんな支援が受けられるのか等をわかりやすく紹介している冊子は継続して配布中。自治体版もあります。

活動の様子はベネッセこども基金のサイトからご覧いただけます。



こどもの安心・安全を守る活動

こどもの生活でもっとも大切な「安全」を守るため、身の回りの防犯・インターネット安全・防災などの観点で教育事業を行っています。

より多くの方にご活用いただくため、25年度よりデジタル教材としてもご活用いただいています

Pick Up

教育プログラムを、学校などへ無償提供

こどもの安心・安全な環境づくりのための支援プログラムの無償提供を、財団設立当初から実施しています。ネット利用の低年齢化により、学校現場からのネットリテラシー教育へのニーズが高まっています。

※防犯分野は市民防犯インストラクターの武田信彦さんに企画・監修いただいています。



防災教育紙芝居
「じしんのときのおやくそく」
※配布は終了しています。



子どもの安全・安心ハンドブック
と安全教室実施パッケージ



初めてのスマホ
インターネット
安全教室
と安全教室実施パッケージ

シリーズ累計のべ約134万部*

※2026年6月時点



助成事業



助成事業は、こどもの学び支援に取り組む
団体への助成を通じて子どもたちを支援する事業です。



重い病気を抱えるこどもの学び支援

2025年度活動団体…6団体
2025年度採択団体…3団体

医療の進歩で助かる命が増えた一方、治療やケアが必要なこどもの学びや体験の機会
は多くありません。病気があっても自分らしい未来をつくり、成長していけるよう、モデル
となる取り組みをする団体を助成することで、子どもたちの学びを支援しています。

医療的ケア児
約2万人^{※1}

難病のこども
約12.4万人^{※2}

Pick Up

特定非営利活動法人エゴノキクラブ

病気寛解の「その先」へ。学校生活や進学、 お金など、これからのこどもの人生に必要なことを 学ぶ勉強会を実施

一歩先を予測し、準備していくこ
とが大切だとの話も出ました



- 治療のその先を考える講演会・プログラム
- 晩期合併症などの長期フォローアップ(医師)
 - 「教育支援計画書」と、進学・就職・社会生活のためにできる
準備(エゴノキクラブ代表・公認心理師)
 - お金と暮らしの備えかた(ファイナンシャルプランナー)
 - 親亡き後の支援「意思決定支援・成年後見制度」(弁護士)
 - どんな支援が必要かを知るための「認知機能検査」(公認心理師)
 - 学ぶ機会を保障されるための「合理的配慮」(教員)

※1 医療的ケア児とその家族に対する支援に関する調査(令和6年3月・総務省行政評価局報告書)
※2 小児慢性特定疾病児童とその家族の支援ニーズの把握のための実態把握調査の手引き書(令和4年3月・厚生労働省)

活動の様子はベネッセ
こども基金のサイトか
らご覧いただけます。



経済的困難を抱えるこどもの学び支援

2025年度活動団体…18団体

社会情勢の家庭経済への影響は大きく、
学び支援を必要とする子どもたちは多くいま
す。環境によって学びや体験の機会が失わ
れることのないよう、こどもの未来を育む取
り組みをする団体を助成し、支援しています。

こどもの
貧困
約9.1人に1人^{※1}

高等学校の
中途退学者
約4.5万人^{※2}

社会的養護
児童
約4.2万人^{※3}

外国ルーツの
こども
約17.8万人^{※4}



Pick Up

特定非営利活動法人うみのこてらす

どこにいても支援が受けられるように。 地域の特徴を生かし、人とのつながりをつくりながら こどもの学びを支援するモデルづくり

経済的困難を抱えるこどもの学び支援として、居場所づ
くりや学習支援などの活動が広まってきています。一方、
活動内容が同じでも、都市部、過疎地、離島といった地
域特性によって、活動のスタイルや課題、生かせるリソ
ースも異なります。

「特定非営利活動法人うみのこてらす」の活動拠点は、
徳島県の小さな町。「どこに住んでいても子どもたちが
未来をあきらめないように」との思いで、オンライン学
習サポートや長期休みの交流会などに取り組んでいます。

過疎地においては支援する側の人材が集まりにくい
という難点もありましたが、こまめにSNSを更新したり、
プログラムの魅力度を上げたりと県外からも集まる工夫
をしています。長期休みのイベントでは、地域の空き家
を活用して宿泊プログラムを実施するなど町のリソース
を活用。地域とのつながりを得ることで、こどもの支援
に関わる人の輪を広げることも目指しています。
人が少なくても、地域の魅力や特性を生かして工夫する
「過疎地での活動モデル」を確立し、機会の格差解消を
目標に活動しています。

※1 2025(令和7)年国民生活基礎調査(厚生労働省)
※2 令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)
※3 令和7年12月社会的養育の推進に向けて(こども家庭庁)
※4 令和7年度外国人の子供の就学状況等調査(文部科学省)

オンラインで充実した学習サポ
ートができるよう、アバターを活用
しながらしっかりとした学習計画
に基づいて支援しています



夏休みの科学教室イベ
ントには、県外から科学に詳し
い支援者が駆けつけてくれ
ました(写真は2024年度)



活動の様子はベネッセ
こども基金のサイトか
らご覧いただけます。



助成事業における非資金的支援



研修やつながり・交流の機会提供で、活動の基盤を固め、ネットワークを広げる

助成事業に参加する各団体にとって、こどもの学びを支える活動を続けていくためには、それぞれの団体自身の持続可能性が欠かせません。

そこでベネッセこども基金では、団体の課題や成長フェーズに応じて知識・スキルが学べる研修や、課題・成功事例について理解を深める機会、団体同士でノウハウ交換やネットワークづくりができる交流の機会を設けることを大切にしています。

私たちが非資金的支援において大切にしていること



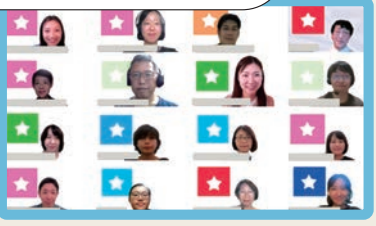
交流会での、学びとつながりづくり

助成団体同士が集まり、共通の悩みや活動の接点を見つけ、今後の活動のヒントを得るための場です。2025年度はオンラインと対面で計2回の交流会を実施。対面の交流会では助成テーマを超えて多くの団体が一堂に会し、こどもの学び支援について広い視野で学び合う場となりました。



ソーシャルビジネスの先駆者や行政を巻き込む好事例など、貴重な学びが満載の交流会

オンラインでの交流会では、子どもの権利について学び、意見交換



少し違う視点から自分たちの事業をとらえる機会は重要だと感じました。

これだけ寄り添ってくれる助成機関は初めてで、ベネッセこども基金のことがより好きになりました。

互いの団体の活動内容や知見を交換し合い、交流。新たなつながりが生まれ、事業に結びつくことも

研修会での、スキル習得

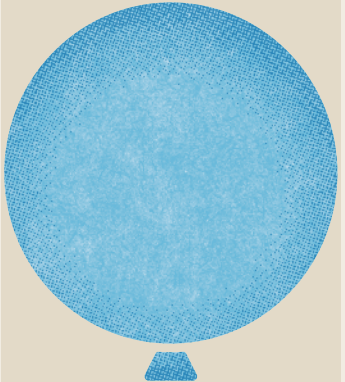
個々の団体の成長フェーズに合わせて、少人数で専門家からスキルを学ぶ研修会です。ニーズにマッチした内容で理解が深まり、自団体の課題解決にもつながります。

- 【実施した研修】
- 資金集めだけでなく仲間集めの手法を学ぶ「ファンドレイジング研修」
 - 協力関係を引き出す手法を学ぶ「協力のテクノロジー研修」

助成金だけでなく、伴走支援が充実しており、とてもありがたいです。

ほかの団体と共通の認識が生まれ、互いに新しい選択肢も生まれそうです。

活動の様子はベネッセこども基金のサイトからご覧いただけます。



2025年度活動した助成団体一覧（2022～2024年度採択）

重い病気を抱えるこどもの学び支援	特定非営利活動法人エゴノキクラブ	小児がんの子どものリーダーシップ育成事業
	認定特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ	心のケアを軸とした長期入院治療を経験したこども達への社会復帰支援
	一般社団法人Child Play Lab.	入院中の小学生を対象にした、ライフアドベンチャー教育のモデルづくりと検証事業
	特定非営利活動法人北海道こどもホスピスプロジェクト	LTCの子どもと家族の状況を学びで改善する仕組みづくり～他地域展開～
	特定非営利活動法人ポプルワークス	病院や自宅等で療養生活を送る子どもたちの内面を豊かに育む、映像制作ワークショップ実施事業
経済的困難を抱えるこどもの学び支援	特定非営利活動法人にこり	法泉寺けあらば（医療的ケア児とその家族のQOL向上・災害対策に向けた旅行支援）
	認定特定非営利活動法人茨城 YMCA	「モンゴルこどものオルドン」在日モンゴル人の子どもの学習支援・居場所づくり・文化体験を行う事業
	特定非営利活動法人ABCジャパン	神奈川県・群馬県の外国につながる子どもの状況調査・教育相談とフリースクールのモデル化事業
	特定非営利活動法人かごしまヤングケアラー支援ネットワーク	“負の連鎖”を防ぐ為、離島の生活困窮家庭のヤングケアラーの学習支援及び生活支援事業
	特定非営利活動法人さが子ども多文化センター・わーどりんぐ	外国にルーツを持つ子どもへの教育支援事業「わーどりんぐ」
	認定特定非営利活動法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金	横浜市の県営団地における子どもたちの居場所づくりプロジェクト
	一般社団法人UMEプロジェクト	経済的困難を抱える母子施設のこどもたち（小学生～高校生）のための地元大学と連携した支援ネットワークモデルの構築
	認定特定非営利活動法人e-Education	同郷者による外国につながる子ども（越境児童）のオンライン教育伴走プログラム（全国展開を見据えた自治体モデルの構築）
	特定非営利活動法人うみのこてらす	過疎地域の困難を抱える子どもに出会いと意欲と学びを届ける新たな学び支援モデルの構築
	認定特定非営利活動法人オリーブの家	傷つきを抱えた子どもに生きる力を育む地域連携体験学習 孤立防止オリーブキッズサポートランチ宅配事業
	一般社団法人くじら寺子屋	進学に課題を抱える中学生・高校生・高卒認定の受験サポート及び県外受験同行支援
	一般社団法人ソウレッジ	支援者向け性教育学び直しワークショップ「ブレイクスごろく」
	特定非営利活動法人BORDER FREE	放課後学習教室（いつでも大学生に質問できる勉強スペース、家庭、学校に次ぐ第三の居場所としての機能）さくら教室（高校受験や英検試験対策を行う集団授業形式の事業）
	認定特定非営利活動法人アイキャン	地域連携による外国にルーツを持つ就学前のこどもの日本語・母語の教育環境整備事業
	一般社団法人Kids Code Club	貧困の連鎖を断ち切るための総合的なデジタルスキル学習サポート

2025年度採択が決定した助成団体一覧（2026年度活動）

- 募集期間：2025年6月17日～2025年9月1日 ● 応募数：34件
- 採択事業数：3件 ● 助成総額：4,910,000円
- 助成対象期間：2026年4月1日～2027年3月31日

団体名	申請事業名	所在地	初年度助成額
一般社団法人顔晴れ会	小児がん・長期療養児のための社会とつながる学びと体験創出事業	沖縄県	1,840,000円
特定非営利活動法人Colorbath	ひろがれ、セカイ～病院の教室から世界とつながる学び～	福岡県	970,000円
一般社団法人Child Play Lab.	病気とともに生きる小学生を対象にした、ライフアドベンチャープログラムのモデルづくりと検証事業	東京都	2,100,000円

貸借対照表の要旨（2026年3月31日現在）

Ⅰ. 資産の部			Ⅱ. 負債の部			Ⅲ. 正味財産の部			
科目			科目			科目			
金額			金額			金額			
1	流動資産	37,637,166	1	流動負債	19,996,704	1	指定正味財産	231,174,898	
	現金預金	37,637,166		未払金	19,883,438		（うち特定資産への充当額）	231,174,898	
				預り金	113,266				
	固定資産	231,392,246	負債の部合計		19,996,704		2	一般正味財産	17,857,810
	特定資産（事業積立資産）	231,174,898	正味財産の部合計		249,032,708				
	その他固定資産（什器備品）	217,348	負債及び正味財産合計		269,029,412				
資産の部合計		269,029,412							

正味財産増減計算書の要旨（2025年4月1日～2026年3月31日）

		科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ. 一般正味財産増減の部	1. 経常増減の部	(1) 経常収益	113,074,946	171,707,981	△ 58,633,035
		受取寄付金	110,448,727	170,696,410	△ 60,247,683
		受取寄付金	3,088,965	5,211,034	△ 2,122,069
		受取寄付金振替額	107,359,762	165,485,376	△ 58,125,614
		雑収益	2,626,219	1,011,571	1,614,648
		(2) 経常費用	136,605,983	175,758,543	△ 39,152,560
		事業費	113,074,946	151,707,981	△ 38,633,035
		支払助成金	34,779,216	62,414,132	△ 27,634,916
		給料手当	26,556,226	24,803,072	1,753,154
		支払負担金	16,442,637	26,791,651	△ 10,349,014
		旅費交通費	10,301,304	9,871,594	429,710
		委託費	6,669,779	7,083,486	△ 413,707
		その他事業費（通信運搬費、制作費など）	18,325,784	20,744,046	△ 2,418,262
		管理費	23,531,037	24,050,562	△ 519,525
		給料手当	6,639,063	6,200,768	438,295
		委託費	6,389,662	6,048,359	341,303
		制作費	2,092,376	1,554,300	538,076
		賃借料	1,888,151	1,900,878	△ 12,727
		法定福利費	1,131,048	1,056,112	74,936
		その他管理費（印刷製本費、報酬など）	5,390,737	7,290,145	△ 1,899,408
		評価損益等調整前当期経常増減額	△ 23,531,037	△ 4,050,562	△ 19,480,475
		評価損益等計	0	0	0
		当期経常増減額	△ 23,531,037	△ 4,050,562	△ 19,480,475
	2. 経常外増減の部	(1) 経常外収益	0	0	0
		(2) 経常外費用	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額		△ 23,531,037	△ 4,050,562	△ 19,480,475	
当期一般正味財産増減額		△ 23,531,037	△ 4,050,562	△ 19,480,475	
一般正味財産期首残高		41,388,847	45,439,409	△ 4,050,562	
一般正味財産期末残高		17,857,810	41,388,847	△ 23,531,037	
受取寄付金		0	170,000,000	△ 170,000,000	
Ⅱ. 指定正味財産増減の部	一般正味財産への振替額	△ 107,359,762	△ 165,485,376	58,125,614	
	当期指定正味財産増減額	△ 107,359,762	4,514,624	△ 111,874,386	
	指定正味財産期首残高	338,534,660	334,020,036	4,514,624	
	指定正味財産期末残高	231,174,898	338,534,660	△ 107,359,762	
Ⅲ. 正味財産期末残高			249,032,708	379,923,507	△ 130,890,799

名称	公益財団法人 ベネッセこども基金	
所在地	〒206-8686 東京都多摩市落合1-34	
設立年月日	2014年（平成26年）10月31日 ※公益財団法人移行日：2015年（平成27年）4月1日	
役員		
代表理事・理事長	五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
代表理事・副理事長	福原 賢一	株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ 社外取締役
理事	耳塚 寛明	お茶の水女子大学 名誉教授
理事	小見山 智恵子	国際医療福祉大学生涯学習センター 看護部門統括責任者
理事	青柳 光昌	一般財団法人 社会変革推進財団 代表理事専務
理事	マセソン 美季	国際パラリンピック委員会 理事
理事	佐久間 貴子	株式会社ベネッセスタイルケア 取締役・常務執行役員 こども・子育て支援カンパニー カンパニー長
監事	尾尻 哲洋	税理士
評議員		
評議員	高野 一彦	関西大学社会安全学部長・大学院社会安全研究科長
評議員	岡本 千恵（龍 千恵）	特定非営利活動法人 ホースタウンネットワーク 理事長
評議員	溝口 康代	株式会社ベネッセコーポレーション 理念・サステナビリティ推進室長
評議員	能島 裕介	尼崎市こども政策監、園田学園大学学長補佐

※2026年8月現在

2026年8月
発行：公益財団法人 ベネッセこども基金
写真 表紙・裏表紙：柁木 功(nomadica)
イラスト：米村知倫

アートディレクション：細山田光宣（細山田デザイン事務所）
デザイン：鎌内 文（鎌内装幀室）、藤井保奈（細山田デザイン事務所）
取材（p4）・構成・文（p3 - 12）・編集協力：竹内彩子
印刷・製本：株式会社 協同プレス



Support

ご寄付のお願い



ご寄付の方法

▶ WEBサイト

下記サイトより、
ご寄付をお申込みいただけます。

<https://congrant.com/project/benekikin/19242>



▶ 銀行振込

下記口座へのお振込みにて、ご寄付をお預かりしています。

銀行名	みずほ銀行 新宿西口支店
番号	(普通) 口座番号1189837
口座名義	ザイ) ベネッセコドモキキン

※みずほ銀行より送金いただく場合、
ATMも含めて本支店間の送金手数料は無料となります。

▶ 遺贈寄付

遺贈寄付について、詳しくは下記WEBサイトをご覧ください。
ご不明な点がございましたら、
お気軽にお問い合わせください。

<https://benesse-kodomokikin.or.jp/legacy>



※公益財団法人の認定を受けているので、寄付金控除の対象となり、
確定申告を行うことで税制優遇の対象となります。
領収書をご希望の場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。

お問い合わせ先

公益財団法人ベネッセこども基金 事務局

TEL 042-357-3659

月～金 10:00～17:00 * 祝日・夏季休暇・年末年始を除く
※事務局メンバー不在など、お電話がつながりにくい場合があります。

公式HP : <https://benesse-kodomokikin.or.jp/>

問い合わせ先のアドレス : info@benesse-kodomokikin.or.jp

最新情報は
各種SNSでも

